

【八丁堀だより】



◎ 月一報恩講(寺子屋サロン): 13時30分~15時
 開催日は28日に固定し(土日なら直前の金曜日に変更)、
 親鸞聖人の御命日にちなみ「月一報恩講」と呼ぶことにします。

- 10/28(火) 仏具のお磨き
- 11/28(金) 住職が東本願寺に出講するのでお休み
- 12/26(金) 仏具のお磨き・大掃除

◎ 死別の分かちあいの集い: 13時~15時
 ・夫を亡くした方: 毎月第1土曜日(11/1・12/6・1/10)
 ・自死遺族の方: 毎月最終土曜日(10/25・11/29・12/27)
 ◎ 整体・寺ヨガ・アロマハンドケア・敬老カフェ・よろず相談会
 毎月開催していますが、日にちや曜日を固定していないので、
 お寺の掲示板をご覧くださいか、お寺までお問い合わせください。

◇ 寺院護持費(墓地管理費)について
 例年 この時期はお納めいただく方が多く、玄関が
 混み合います。お振り込みもどうぞご利用ください。
【ゆうちょ銀行 15190-55770601】
 他金融機関からゆうちょ銀行へ振り込まれる際は、
 次のように入力してください。

- 【名義】 チョウカクジ
- 【店名】 五一八(読み ゴイチハチ)
- 【店番】 518(普通預金) 5577060

◇ 報告・連絡・“僧”談
 当初から賛否両論があった大阪・関西万博でしたが
 行かれた方もおられるでしょう。私は9/26に「万博寺」と
 いう催しに参加し、半日ずっと御朱印を書いていた。
 楽しい思い出になりましたが、その御朱印が約1万円で
 メルカリで売買されていたのは、今の時代性を感じます…

発行人: 超覚寺住職 釈隆恩(和田隆彦) (* -)人i合掌

浄土真宗(真宗大谷派・東本願寺)



林鶯山 超覚寺
 憶西院

RIN-O-ZAN OKU-ZEI-IN CHO-KAKU-JI
 (since 14層2162, 西暦1619, 元和5)
 〒730-0013 広島県広島市中央区八丁堀 5-2
 Tel : 082-221-1234 ; 090-9999-3113
 Mail : wada@namuamidabutsu.com
 HP : http://www.namuamidabutsu.com
 http://mytera.jp/tera/48chokakuji

超覚寺 冬の行事のお知らせ

慈光のもと、平素は様々にお世話になっておりますこと、
ありがたく存じます。
さて、下記の通り法要・法座を勤修いたしますので、
ご参詣くださいますよう、ご案内申し上げます。<(-_-)>

◎ 報恩講法要

11月8日(土) 13時30分～ 勤行:市内法中

14時頃～15時30分 法話(休憩有)

石田元師(浄土真宗本願寺派長福寺住職)
広島青年僧侶春秋会(浄土真宗の40歳までの若手僧侶で構成
されている会)でもご活躍されている西本願寺のお寺の若手住職
さんです。

当初は、元師のお父様で私の朋友でもある石田博文師にご依頼
していましたが、西帰されましたので後任をお願いしました。次世代
の真宗観を、お浄土にいらっしゃる博文師と共に、私も有難く拝聴し
たいと思います。

また、私も夏に母親を亡くしたので、「親を亡くした子」同士での対
談もしたいと考えています。

午後からの法座になりますが、お斎弁当をご用意しております。晩
御飯の心配をせずに法座に専念いただければと…。

◎ 2026年修正会法要

1月1日(木・祝) 7時～、8時半～、10時～、11時半、

一年の計は元旦にあり。「今年もお念仏の道を歩ませて頂きます」
と阿弥陀如来にご挨拶申し上げます。住職が約10分ほど勤行・
法話を勤めますので、新年どうぞ本堂までお参りください。

しまうのです。でも、あらゆることをご縁の積み重ねで成り立って
いるんだと領けたら、私の思い通りに行かないこと(一切皆苦)は当
たり前なんだと受け入れられました。今の状況が続くことはない(諸
行無常)ことや、私だけの責任ではない(諸法無我)ことも当たり前
だと思えて、相手の都合や社会の状況を考える余裕もできて、必要
以上に自責することも誰かを悪者にすることも無くなりました。

「諸法無我」は一般的には、『この世の全ての物事は、お互いに影
響をし合う因果関係によって成り立っている。何ひとつ永遠不変で
独立自存するような実体(我)として存在するものはない。』という意
味ですが、私はこの「我」が「我欲・自責の念・自己責任」だと思え
てきて、そのおかげで自分を責める気持ちに囚われることが無くなっ
ただろうと思います。これも仏教の現世利益だと考えています。

◇ “寺”後報告【秋季彼岸会】9月20日(土)

今年の秋季彼岸会も
瓜生崇師をお迎えして
無事厳修いたしました。

雨天の予報でしたが
降雨することも無く、21
名がお参りされました。

瓜生師はお釈迦さま
のお経についてお話し
くださいました。お釈迦

さまは執着してしまふからとお経を文字化することを禁じていたことや、
仏典結集(ぶつてんけつじゅう・お釈迦さまの入滅後、その教えが散逸
したり異説が生じたりするのを防ぎ、教団の統一を図るために行われ
た仏典の編集作業)の様子を落語のように話してください、面白くて分
かりやすい法話でした。来年は、この続きになる阿弥陀経(浄土真宗
で最も読まれるお経)の内容に触れていただく予定です。



☆ 報恩講とは

浄土真宗の御門徒(御同朋御同行)が勤める、1年で最も大きな仏事です。京都の東本願寺(真宗本廟)では毎年11月21日から28日まで勤められ、全国の浄土真宗寺院でも年に1度、日時を定めて勤められています。これまでも4回ほど東本願寺へ団体参拝していましたが、また数年振りにお参りしようと計画しています。

“報恩講とは何か”を知るキーワードに「11月28日」があります。宗祖親鸞聖人は1262(弘長2)年11月28日に90歳のご生涯を終えられました。親鸞聖人が亡くなられた祥月命日に仏法を聴く集いを開いて、自らの信心を確かめ学び直しという人たちが集まりました。この集いを「講」といいます。その源は、親鸞聖人ご自身が生師・法然上人のご命日に人々と寄り合い、お勤めをし、法話を聴き語り合っておられたことにあります。超覚寺でも『月一報恩講』と称して毎月28日に開催しています。

第2のキーワードは「報恩」です。恩に報いる、恩を報らせる、とも読めます。私たちが生きていく上には、親の恩や師の恩など様々なご恩があります。報恩講の「恩」は、私たちを救ってくださる仏さま(如来大悲)、そして私たちに先だって生きていかれた方々(師主知識)のお勤めによってお念仏の教えに遇い、一人ひとりが生きる依り処を教えていただいたご恩のことです。そのご恩に報いる・報せるとは、唯お念仏を称えることです。阿弥陀如来と親鸞聖人ともに恩返しし、有縁の御同朋御同行に恩送りすることが、報恩講という仏事には託されているのです。

その報恩講は、人々が寄り合ったりお齋をいただいたり、共に聞法する場として、今日まで脈々と勤められています。

さて現代ではどのような形態が良いのか? 昨年から午後後に開催していますが、試行錯誤しながら多くの方がお参りいただいただけの報恩講を目指して、今年もお勤めさせていただきます。

☆ 四法印(しほういん)

お釈迦さまが見出した現実世界の実相を表す言葉です。仏教の基本的な教えとして、全ての法(現象や物事)に共通する特性や仏教の世界観、人間の存在に関する理解を示すものです。

① 諸行無常(しよぎょうむじょう)

全ては永遠不変ではなく、常に変化していく。

良いことも悪い方に、悪いことも良い方に変わっていく。

不満なことも不安なことも、ずっとそのままであることはない。

② 諸法無我(しよほうむが)

でもそれら全ては自分とは無関係に起こるもので、良いことも悪いことも自分のせいを感じるが、そういうことは決してない。因縁次第。

③ 一切皆苦(いっさいがいく)

苦しいのは自分だけではない。皆それぞれにそれぞれの苦がある。

④ 涅槃寂静(ねはんじやくじょう)

涅槃は安穩の境地である。浄土真宗は、南無阿弥陀仏と称える(阿弥陀如来にお任せする)ことが安穩につながっていく。

私は最近の法話では主にこの「四法印」を話しています。30年前、セールスマン生活に疲れていた私は、運良く縁のあった超覚寺に來れました。数値目標の無い法務のおかげで段々元氣になっていきましたが、前住職と衝突することが増えて、3年ほど広島から離れて暮らしたことがありました。その間は一般企業に就職してまたセールスマンをしていましたが、その時は仕事のノルマを難なくこなせていました。それが私には不思議に思えて、以前とは何が違うのか? と考えていました。

そこで気づいたのは、自分に自責の念があるかどうかでした。「物が売れずノルマがこなせないのは自分が悪いからだ」と自己責任を強く感じてしまうと、委縮してしまい顧客に向き会えなくなって